

116 ^{まんじ} 万治の石造大日如来 ^{せきぞうだいにちによらい}



指 定 市有形文化財 昭和61年 9 月10日
 所在地 協 和
 所有者 比田井 良嗣



天神城跡北尾根突端の古墳上に造立された像高63cm、丸彫の石造金剛界大日如来である。左胸部に万治2年（1659）大日如来、右胸部に5月□日、左ひざ部に天神林、と読みとれるが、その他の刻字は読みとれない。円頂僧衣の地藏型ではあるが、印相により大日如来と判断できる。如来の持つ尊厳温和さをかなぐりすてた異様な雰囲気を持った、修験道的感じの強い石仏である。

石仏が民衆により造立されるのは寛文時代以降であるが、この像は、それ以前の造像であって、貴重な遺産である。